

会 議 録

会議の名称	第1回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和6年10月31日（木）14時00分～16時10分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 401・402・403 会議室 又は リモートによる開催	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委員氏 名	（出席者） 林 昌彦、石原政司、谷笹摩弥、喜多和美、岡本一也、村上晃宏、西川彩児、岩成麻子、山本めぐみ、中林久美子、山國和志	（欠席者） 西山大作
事務局氏 名	市長公室：水口公室長、中尾次長 市長公室地域創生課：久内課長、福田副課長、白畑係長、衣笠係長、中瀬主査、田渕主事、石原主事 市長公室秘書政策課：西川次長兼課長、上月副課長兼係長	
傍聴人数	傍聴者なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	☒ 公開 ・ 非公開	（非公開の理由）
決定事項	協議事項 (1) 総合計画及び地域創生戦略委員会について (2) 第2次総合計画後期基本計画及び第2次地域創生総合戦略について (3) 第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略の実績報告について - 計画の推進方針と指標について - 第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略「まちづくり指標」進捗評価 - 第2次宍粟市地域創生総合戦略＜Plus DX＞～宍粟市の地域創生を進めるための＜Plus DX＞の視点_3つの柱～進捗状況 - 第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略「まちづくり指標」実績一覧 (4) 木育推進事業、宍粟市風景ビジョンの進捗等について - 木育の推進について～取組状況の報告～ - 風景ビジョンの浸透について～取組状況の報告～	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	（委員長等） 委員長 林 昌彦	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	■開会 ■委員紹介及び委員あいさつ【資料①】 ・委員自己紹介 ■事務局あいさつ ・事務局自己紹介 ■委員長・副委員長の選任 ・委員から、委員長に林昌彦委員、副委員長に石原政司委員を推薦（各委員・異議なし） ・委員長に林昌彦委員、副委員長に石原政司委員を選出・承認
委員長	■委員長あいさつ
副委員長	■副委員長あいさつ
事務局	■協議事項（進行：委員長） (1) 総合計画及び地域創生戦略委員会について説明 （資料②-1、2） (2) 第2次総合計画後期基本計画及び第2次地域創生総合戦略について説明 （資料③）
委員長	質問等あればお願いします。
委員	人口ビジョンに関して、来年が令和7年であるが現状の市の人口の状況はどのようなになっているか。
事務局	宍粟市人口ビジョンは国勢調査の数値を基に算出しているが、国勢調査は5年毎に調査が実施され次回は令和7年度となるため、現時点での正式な数値の把握はできない。 なお、令和7年における人口ビジョンの推計値31,900人に対して、令和6年9月末時点の住民基本台帳上の人口は33,968人となっている。しかし、国勢調査と住民基本台帳上の数値では算出基準が異なり数値に幅があることから、次年度実施の国勢調査の結果を注視していく必要があると考える。 また、令和5年度の出生数は131人であり、前年の161人と比較して少ないこ

発言者	議題・発言内容
事務局	とからも、油断できない状況であるとする。 (3) 第2次宍粟市総合計画後期基本計画・第2次宍粟市地域創生総合戦略の実績報告について説明 (資料④-1、2、3、4)
委員長	<Plus DX>についても、4つの定住促進重点戦略に合わせて作成してある。これからの議論についてはこの4項目に区分して、議論していきたいと思う。一方で、これら重点戦略は相互に関連しているものでもあるため、横断的な趣旨での発言をいただいても問題ない。 それでは、意見、質問等あればお願いする。
委員	空き家バンクの成約率について、39.4%という数値は全国的に高いものなのか。また、YouTube や市ホームページ等で空き家バンク制度や物件紹介をされているが、今後こういった活動をしていくかといった方針があれば伺いたい。
事務局	空き家バンクの成約率について、全国との比較はできていないが、2020年度における類似団体との比較では、国内トップ3に位置する成約実績を残している(※)。令和4年度、5年度ともに50件以上の登録があり、成約数もそれぞれ40件程度ある。また、新たな取組として「空き地バンク制度」という形で空き地を有効活用するということにも取り組んでおり、併せて空き家の有効活用を進めていきたいと考えている。 ※宝島社「田舎暮らしの本」アンケート(小さなまち部門)2020年度成約実績ランキングより
委員	佐用町で伺った話ではあるが、空き家の管理は大変であり、解体にも費用がかかる。しかしながら、個人の財産であるため、行政もなかなか対応できず、取扱いに苦労していると聞いている。宍粟市の空き家の対策についてはどうか。
事務局	空き家バンクへの登録・活用の呼びかけを継続するとともに、行政だけでは対応できない部分についてはNPO法人や関連団体との連携強化を図ることで、空き家の有効活用について進めていきたいと考えている。
委員	宍粟市へ移住した人たちの主な年齢層と人数について伺いたい。また、移住者が地域に入っていられる際によくあるトラブルとして、地域になじめず、都会に帰っていくという事例がよくあるかと思うが、そういった移住後のトラブルを防止するために何か施策を行っているのか伺いたい。

発言者	議題・発言内容
事務局	移住者の年齢層と数について、住民基本台帳に基づく令和5年度の転入者の数は648人であり、年齢層としては20代、あるいは30代の転入が比較的多い。 移住者への移住後のトラブル防止に関しては、ご指摘のとおり、宍粟市の場合、自治会に入るのに自治会費が発生したり、地域特有のルールがあったりというところがある。 市で設置している定住促進コーディネーターによると、自治会費やゴミ捨てのルールといった地域のルールについての説明は事前に行っているとのこと。 また、地域おこし協力隊を受け入れる場合の話では、受け入れの際に地域の代表、世話人の方を選出する中で、移住先の特性を伝えた上で受け入れをしないと工夫を行っている。
委員	移住にあたって事前に地域の方と交流するといった試みは行っているのか。
事務局	地域おこし協力隊の受け入れの場合では、自治会長等の地域の代表の方と調整しながら受け入れを行っているところである。 また、移住定住の受け入れについては、事前の交流会などの取組は把握していないが、定住促進コーディネーターが自治会長等とのやりとりにおける窓口の役割を持ちながら移住の相談を行っているというところである。
委員	宍粟市では、協力隊OB・OGを中心に構成される団体（宍粟くらし移住支援会）があり、行政も支援されているが、そういった取組は素晴らしいと思う。 空き家バンクの成約率が約40%弱ということだが、その後どれぐらいの移住者が定住しているのかといった追跡調査等を行っているのか。
事務局	空き家バンク制度の利用者がその後、定住しているのかといった追跡調査は行っておらず、把握できていない。
委員	Plus DXに関して、まずは行政内部のデジタル化を進めていくということだが、それによって構築されたシステムを市民がどのように活用していくのか。 また、DXについて議論していく中での中心的な課題である「誰一人取り残さない」、デジタルデバイドをいかに克服していくのかという点について、進んでいるところがあれば教えていただきたい。
事務局	デジタル化の推進ということで、令和6年3月に第2次宍粟市地域創生総合戦略＜Plus DX＞を策定した。 現在の状況については、DXの推進による「誰一人取り残さない」と完全にイコールではないかもしれないが、従来の紙申請などのアナログな部分にも重点を置きつつ、庁内のデジタル化を進めているところである。

発言者	議題・発言内容
委員	具体例としては、今年度から小児インフルエンザ予防接種費の助成において、従来は紙申請による手続のみであったものが、オンラインでの申請も可能ということでアナログとデジタル双方で受付可能となっている。 いくつかこのような申請のデジタル化を推進しているところだが、若い世代からは利便性が高いという意見もいただいております、引き続き推進していく。 また、高齢者など、デジタルツールの活用が難しい方への支援については昨年度の委員会でも議論があったが、まずはスマートフォンの使い方教室の開催を進めているところである。
事務局	人材の斡旋・紹介について、わくわ〜くステーションがあるが、新卒大学生を募集したり、近隣の自治体に在住し、宍粟市で働きたいという方を近隣の地域相互で斡旋、紹介したりするといったシステムはないのか。
委員	新卒の採用に関して、介護分野では大卒の就職が解禁される毎年6月にわくわ〜くステーションが各大学を訪問し、学生へ市内介護事業所の紹介を行っている。 加えて「JUMP UP SHISO」という合同企業説明会を開催しており、令和5年度の開催実績として、32社の出展、来場者として市内高校生107名の参加があり、こういった合同説明会の場において若者の就業意欲を高めていく取組を行っている。
委員	新卒の年齢層の若い方が地域に残ってくれない。企業努力も大切だが、一定のアピールは行政としても取り組んでいただきたいと思います。
委員	現在、高卒就職者の確保が非常に難しい。市外の専門学校などに進学し、そのまま市外で就職するといった事例がよく見られ、企業努力だけでは厳しいところがある。 また、就職や進学で一度市外に出たとしても、再度地元へ戻ってきてもらえたらありがたいが、子どものころから地元への愛着や郷土愛といった形に見えないものを育んでおかないと、成長してからまた地元に戻ってくることにはつながらないと感じている。就職のタイミングだけPRしても駄目で、小さいときからの積み重ねが地元に戻ってきてもらえることにつながるのではないかと。そういった形のない郷土愛の醸成に行政として取り組んでいただきたいと思います。
委員	宍粟市の会社で、フリーオフィスやテレワークなどを企業として推進し、新卒大学生を多く採用しているところがある。女性が働きやすい職場環境や、きれいなオフィスなど、「若者が働きやすい、働いてみたい企業とはどんなものなのか」という研究をしてもよいと思う。

発言者	議題・発言内容
委員	また、働き方として、最近よく言われている「ワークシェア」というものがある。例えば冬季はスキー場で働いて、夏場は農業をするなど複数業種に就くことで、1年間途切れなく仕事に就くというものである。そういった取組についても今後検討いただければ、農業や林業の担い手不足解消に役立つのではないかと思う。 令和3年度に山崎高校の「森林環境科学科」と「生活創造科」が統合され「森と食科」となった。当学科の生徒で「兵庫県立森林大学校」が市内にあると認知していると答えた生徒が2～3割しかいなかった。学科が一つとなり、森林、林業に対する興味が薄れてしまっているのではないかと思う。理想として、県内唯一の森林関係の学科がある高校から、同じく県内唯一の森林林業に関する専修学校である森林大学校に入学し、市内林業関係企業に就職することがスタンダードになればいいと思う。
委員	行政の職員として、テレワークの推進を行い、ノウハウの蓄積ができていると思うが、例えば、移住・定住される方がテレワークできるような環境、場所の提供は考えていないのか。
事務局	まず、環境、場所の提供については現在、各市民協働センター内に学習スペースという形で場所を設けているところである。そういった場所の提供を想像して質問されていると思うが、現状そのようなニーズを把握できておらず整備に至っていない。ニーズ把握も含めて今後の課題であると考えている。
委員	子育て支援について、病児保育が進んでいないと感じる。両親が働いており、お子さんが緊急で病気になった際に仕事を休まないといけなという状況が増えているという話も聞いている。もう少し病児保育に力を入れていただければありがたい。
事務局	現在、病児保育室「そらまめ」を整備し、1日3名までの定員ではあるが受け入れを行っている。また、新病院の整備にあたっては、民間において病児保育機能を担っていただけるよう調整を進めている。
委員	農業に関して、現在小規模農業では、自身の人件費も賄えないという話を知り合いから聞いた。農業がある程度儲かるようになれば、若者も帰ってくるのではないか。 また、これは根本的には国の問題であるが、食料自給率を増加させるためには、補助金をさらに充実させる必要があると思う。アメリカは大規模農業で大きな機械を使うから単価が安いといわれているが、補助金が潤沢であることも

発言者	議題・発言内容
	主要な理由の一つであり、日本はそういった補助金がない。こういった状況を変えていかなければ、目先の対策では難しい状況になっており、若者にとっては農業がやりづらい環境となっている。農業で頑張る人たちにもっと勇気を与えるような世の中になっていかないといけないと思う。
委員長	それでは、次の協議事項に移る。事務局より説明をお願いする。
事務局	(4) 木育推進事業、宍粟市風景ビジョンの進捗等について説明 (資料⑤、⑥)
委員長	本件について質問、提案等あればお願いする。
委員	風景ビジョンについて、ふるさと風景展では風景と併せてコメントを募集したようだが、今後も同様に風景や、その写真等を通して愛着と郷土愛を育んでいく取組として風景単体だけではなく、それにまつわるストーリーや付随する文化、伝統の紹介を併せて情報発信していくことは必須だと思う。
委員	みどりじまん新聞について、市内中学校及び高校へ配布されているが、執筆元である県立森林高等学校の認知がされていないと感じる。写真を増やしたり、文字を大きくして見やすくしたりするなどの工夫も必要だと考える。また、事業者へのみどりじまん新聞配布も効果があるのではないかなと思う。 また、小中学校での「森林」に関する教育について、教育委員会と連携して取組を進めてはどうかと思う。
委員	「木育」について、現在木製玩具の導入を進めているところだと思うが、主に乳幼児～小学校入学前の児童を対象としている。例えば、小学生に向けて公園に宍粟材の遊具を設置してはどうか。 また、移住者の方を中心に DIY を好まれる方も多い。県立森林高等学校と連携を行い、大人向け DIY 講座を開催してもよいと思う。 「風景ビジョン」については、ふるさと風景展で応募があった作品の場所に赴くことでポイントや宍粟市の特産品がもらえるといった企画があれば、実際に足を運んでもらうきっかけになるのではないかな。
委員	「木育」、「風景ビジョン」共に、少子化対策や地域の活性化、移住・定住の促進に向けては、間接的な関わりとなるものだと思うが、例えば「選ばれるまち」を考える際に「木育」と「風景ビジョン」が実際にどのように自身の生活に関連してくるのかイメージするのが現状難しいと感じる。今後の推進にあたっては、これらの取組が実生活にどのように関わってくるのかという視点をも

発言者	議題・発言内容
	って取り組んでいく必要があると考える。
事務局	本日いただいた意見を参考に今後の取り組み方について検討していく。
委員長	それでは、これで協議事項は終了したい。「その他」について事務局より説明をお願いします。
事務局	■その他 ・今年度の委員会開催は今回の１回のみ。 ・会議録については後日、委員の確認の上、市ホームページで公表する。
副委員長	■閉会 本日の委員会の内容は、総合計画及び地域創生総合戦略の進捗状況についての議題がメインであったが、「働く」の分野に関して言うと、仕事の中で高校の先生と就職について話をする機会があり、現在、高卒就職者の人材不足が全国で大きな課題になっているそうである。大手企業においても、高卒就職希望者に対して注目が集まっており、多数求人があるとのこと。ここ数年でそのような人材の取り合いになっている環境へと大きく変化している中、テーマとして「選ばれるまち」、もう少し小さい言い方をすると、「選ばれる企業」、「選ばれる職場」とは何かということを意識していかないと、総合計画及び地域創生総合戦略の目的を達成することができないと感じている。 そのような視点も持ちながら、今後この計画が計画通り進むように見守る、あるいは意見を述べるといった形で参加していきたいと思う。